

from the world
世界の国から

ラオス人民民主共和国

Lao People's Democratic Republic



ヴィライヴォン・ブッダカム

ラオス青年同盟
副総裁

Mr. Vilayvong Bouddakham
Deputy Secretary General
Lao People's Revolutionary Youth Union

首都 ビエンチャン
面積 約24万平方キロメートル
人口 560.9万人
政体 人民民主共和制
元首 チュンマリー・サイニャソーン大統領
通貨 キープ
日本からの主な進出企業
王子製紙、山喜、
東京コイルエンジニアリングほか



メコン地域開発を経済発展の足掛かりに

写真提供：日本アセアンセンター

ASEANのランドブリッジ化構想

2000年代に入りラオスでは毎年7%前後の経済成長が続いており、今後もこの上昇傾向が続くと見られています。また近年、産業形態も農業中心から、エネルギー産業や鉱業などの第二次産業、観光やサービス業などの第三次産業に移行しており、経済政策は順調に進んでいると言えるでしょう。

昨年の12月にラオス南部のサバナケットとタイ東部のムクダハンを繋ぐ第二メコン国際橋が開通し、ベトナムからラオス、タイ、ミャンマーとインドシナ半島を横断する東西回廊が始動したことも大きな注目を集めています。さらに、中国からラオスを通りタイとインドシナ半島を縦断する南北回廊も2008年中の完成が予定されています。

システムの簡略化と周辺整備が鍵

東西回廊については、これからタイ政府やベトナム政府と協力しながら、インフラを整備していかなければなりません。具体的には税関窓口を一本化し、時間の短縮や書類の簡素化を図るなど、運輸システムの効率を上げることが重要です。

また、国内運輸業界のサービスやシ



首都・ビエンチャン

ステムの向上、新しいトラックの購入などに対して政府の支援が必要だと感じています。さらには沿線のコミュニティと共同して、ホテルやガソリンスタンド、レストランなどの周辺施設を充実させることも考えなくてはなりません。今後は運輸のノウハウに秀でた日本企業の協力を仰ぎ、ラオスの物流システムを国際的なレベルに引き上げていきたいと思えます。

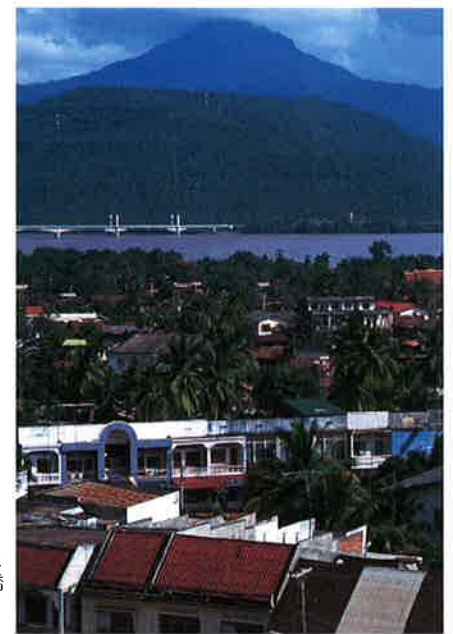
交通網の発達に合わせて、サバナケットを経済特区にする計画も活発化してきました。同経済特区の開発整備については、日本政府や国際協力銀行、国際協力機構などの協力を得て、進めていきたいと考えています。物流サービスの中心となるサバナケットにはコンテナターミナルを設置することが検討課題です。

地理的不利を有利に変える投資に期待

ラオスはこれまで内陸国という地理

的制約やインフラの未整備、そして少人口ゆえの購買力の低さといった弱みがありましたが、国内を横断、縦断する道路の開通により、中国や他のASEAN諸国などの大市場へのアクセスが容易になりました。法人税や利益税、生産・労働コストの低さに加え、数多くの国との特惠関税や投資協定を締結しているという強みもあります。

今回が3度目の来日になりましたが、滞在中、東京で開催された投資セミナーには200人も参加者があるなど、来るたびに日本企業のラオスに対する関心の高まりを感じます。民間企業との商談については長期的な視野で立ち動かなければならないものが多いため、帰国後もその橋渡しをしっかりと続けていきたいと思えます。



南部の街・パクセ、
遠くに見えるのはラオスー日本大橋